

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4793400013
法人名	医療法人 和の会
事業所名	与那原在宅ケアセンター グループホームかなち
所在地	沖縄県与那原町与那原1792番地1 (電話) 098-945-8415

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年7月9日

【情報提供票より】(H20年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年4月20日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	共益費 9,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	74歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	与那原中央病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは近くに小学校・公園・公民館、裏手には木々が生い茂り緑豊かな環境に立地している。本体医療法人が近くにあり、特に医療連携が充実している。建物2階に位置したホーム内は利用者の安心・安全に配慮した造りの上、診療所、訪問看護ステーション等が同居し、利用者の急な体調変化への対応や指示、または、利用者の機能回復へのアドバイスなど十分な協力が図れる。管理者・センター室長が一貫した利用者本位のケアを職員とともに実施し、利用者のみならず家族へも繋げ家族の絆を深めている。在宅ケアセンターとの連携により地域住民に対し認知症ケアの啓蒙活動にも積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年4月に開設のため、本年が初回の外部評価となる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者、職員は自己評価をすることで評価の意義と項目の意味の理解と気付きを確認し、今後のサービスの質の向上に繋げている。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期に開催し、ホーム側から運営面や利用者の生活状況などを報告している。委員からの「地域と関わるにはどうしたらいいか?」との提案があり、現在会議において検討中である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が多く、利用者の状態や様子はその都度報告している。家族が気軽に話せるよう雰囲気作りをし、また、家族から直接の意見・要望・苦情に対しては課題を検討し改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域への広報活動に努め、婦人会のサークルの方たちや保育園の園児の訪問がある。自治会に加入しているがこれまで地域の行事への参加が少なかったため、今後は地域との交流が図れるよう行事への参加など積極的に取り組む予定である。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念には、地域との関わりがごく当たり前のように組み入れられ、地域で共に暮しながら支援できることを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング、毎月のセンター朝礼の中で理念を確認し共有している。また、管理者、職員がお互いの気付きを声にし、日々のケア向上に繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域への広報に努め、保育園・園児、婦人会のサークルの方たちの訪問がある。自治会への加入で地域との交流を深めている。	○	地域密着型サービスとして地域への広報に努め、自治会へも加入しているが地域行事への参加が少ない。今後は地域との交流が図れるよう地域行事への参加に積極的に取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価をすることで意義と項目の理解と気付きを確認し、サービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期に開催し、ホーム側から運営面や利用者の生活状況などを報告している。委員からの「地域ともっと関わるにはどうしたらいいか？」との提案があり、現在会議において検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの行事や勉強会・夕食会などへ市町村担当者を招き、交流の機会を設け情報交換している。		医療連携機能を活用し、地域密着型サービスの広報と事業(転倒予防講座など)を住民向けに開設するなど、市町村と協働で様々な取組みを行っているが、今後は更に、地域のケアレベルを押し上げ認知症を理解していただくよう努めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く利用者の状況、暮らしぶりはその都度伝えている。定期的に各々の金銭出納帳に基づき報告をし、また、ホーム便りの発行し行事の写真などで様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見を言えるような雰囲気作りに努め、家族からは面会時に意見・要望・苦情を言ってもらうことが多く、改善が必要な課題は検討し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については早い時期から利用者や家族に説明し、利用者が不安を抱かないようコミュニケーションを密にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成にはセンター室長が積極的に関わり、研修会への適材者を管理者と勤務調整をし参加させている。多くの職員が受講出来よう配慮されており、研修報告書も全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し情報交換している。隣接する南城市のグループホームとケアレベルの質について意見交換し、日々の支援に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム開設前より利用者宅へチームで訪問し、それぞれの担当者が利用者や家族の意向を把握し入居(居室の配置などへの配慮)に備えた。利用者の不安軽減のため家族にも宿泊の協力をお願いした。職員は利用者の話に耳を傾け相談できる雰囲気作りをし、馴染みの関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員(男性)は利用者からご飯の炊き方を教わったり、利用者の得意分野である料理の味付けをお願いしたり、お互いが協働し生活できるよう場面作りにも工夫している。	○	今後は、利用者が個々で楽しめる手工芸や協働できるお菓子作りなどの機会を設け、利用者の達成感や満足感を満たすよう取組みに期待したい。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を把握した居室(窓からの景色など)の配置したり、利用者の愛用している生活雑貨などの対応をしながら声かけし、利用者の表情、しぐさから本人の意向を汲み取り支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を把握し作成され、利用者の状態や家族の要望が反映できるよう職員全員でミーティングや意見交換を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の介護計画は定期に見直し、利用者の状態や本人や家族の要望に対応し説明している。	○	季節や気温で状態変化が見られる利用者に対して適切なケアを実施しているが、介護計画のモニタリングの際に記述されることが望ましい。また介護計画について、職員間において熟知度の差があるので、お互い声をかけながらより良いサービスの提供ができるよう努めてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じ外出、外泊支援をしている。また、病院受診は家族同行を基本としているが、状態変化に伴う受診には職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医受診時には情報提供書(利用者の状態を管理者や看護師が記入)を届け、受診後の診療情報を担当医から受け取り支援に活かしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する指針を利用者や家族に説明し、職員も医療連携の体制を理解している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを損ねる事のないようさりげなく「何々をしますね」の声かけをし誘導している。利用者が特定されないよう工夫しながら、個人情報保護に細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームに日課はなく、利用者の個々の状況に応じた支援の中、外泊の要望や入浴・食事の時間などに柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の「今日は何々が食べたいね」の希望で管理栄養士の作成した献立を急きょ変更することもある。利用者と職員が調理や片付けを協働し、特に流し台は利用者に合わせて車椅子対応にも工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の設定はあるが利用者の状態に応じ入浴(部分浴、足浴など)を支援している。また、浴室の浴槽や換気窓・ドアの位置などに利用者への配慮が見られ、入浴を敬遠する利用者へは職員が工夫を凝らして声掛けしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は得意とする手工芸を楽しんだり、洗濯物たたみや調理・片付け、プランターへの水かけなどに参加している。日中をホーム内で過ごすことが多いので、利用者に起床時や就寝時(寝間着から普段着へ)の着替えを習慣づけ、一日の生活の流れを感じてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域と馴染みのある利用者の外出(愛飲しているお茶の購入)を定期的に支援したり、食材の買出しに利用者が同行している。また、買い物や外食、公園や海岸を散歩したりと利用者が戸外でも楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出を願望する利用者を把握し、外出しそうな気配を感じたらさりげなく声をかけ同行している。近隣警察署や消防などには利用者の情報を提供し連携を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは作成しているが自然災害・火災訓練などは実施していない。	○	消防訓練計画は今年度内に実施予定である。在宅ケアセンター(ホームを含む)独自で年2回(昼夜想定)の火災訓練を行う予定なので期待したい。また、運営推進会議委員の協力体制の確立なども視野に入れ、今後の取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じた食事や水分の摂取を、管理栄養士の助言や看護師との連携で支援している。定期的に体重チェックをし情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はゆったりとして明るく、利用者の家族から届けられた季節の花が生けられ和やかな雰囲気を感じられる。利用者の視点を重視した空間作りは、トイレ内へのシャワー設置や浴室、食卓の椅子の肘掛などから十分伺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から居室の配置を考慮したり、利用者が安心して利用できるベッドや使いやすいたんすを提供している。居室内には利用者の家族の写真や使い慣れた日用品などが持ち込まれ、居心地よく過ごすための思い々の工夫が見られる。		